

歯 車

河北町立西里小学校学校便り

発行：校長 石澤友章

令和4年4月30日

nishizato



3年ぶりの春

グラウンドの雪もすっかりとけて、桜の開花を控えた4月8日（金）、男子8名、女子9名、計17名の新入生を迎えることができました。ご来賓のご臨席はかないませんでした。入学式としては、3年ぶりに在校生も参加して行うことができました。新入生にとって張り合いがあったことはもちろんですが、在校生にとっても新しい仲間をあたたく迎え入れる気持ちを強くすることができたようです。



また、4月23日（土）には、これも3年ぶりに、春の授業参観とPTA総会を行うことができました。新しい出会いや、1つ学年が上がった喜びに満ちた子どもたちが、いつも以上に張り切って学習する姿を見ていただくことができて本当にうれしく思います。また、PTA活動も、できることから始めて行くというスタンスで再開されることが確認されました。やはり、保護者の方同士、保護者の方と教職員がより関わりを深めながら進んでいくことは、学校に活気がもたらされるものでありひいては子どもたちの豊かな学びにつながっていくであろうと感じます。感染症の収束は未だに見通しのつかない状況であり、今後も様々な対応を余儀なくされることはありますが、子どもたちの心身の健康を支えながら、学校における学びを持続させるべく力を尽くしてしていきたいと思ひます。

今年度の学校経営について

学校教育目標 「社会を生きる 心豊かなたくましい子どもの育成」

目指す子ども像

やさしく	自他を尊重し、思いやりのある子ども
かしこく	主体的に学び続ける子ども
たくましく	たくましい体と心をもつ子ども

※「明るく」→「やさしく」に変更し、自己肯定感や多様性を認め合うことを盛り込みました。「かしこく」では、学びの主体性と連続性を大切にすること、「たくましく」では、身体的な体力向上とともに、粘り強さや子ども自身によるPDCAサイクルの推進を意識しました。

学校経営の重点

「子どもの育ち」を真ん中に置いた学校づくり

キーワード ～「自分ごと」「自分から」～

20年後には、今ある職業の半分はAIにおきかわり、なくなっているだろうといわれています。このような変化の激しい社会に生きる子どもたちに必要な力は、経験したことのない新たな課題に直面したときに「自分だったらどうするか」と自分事として捉え、主体的に解決していく「自分たちで気づき、考え、行動する」力です。そのためのキーワードを「自分ごと 自分から」として示しました。誰かから「させられる活動」ではなく「自分で決めて実行し、その行動に責任をもつ活動」を大切にします。子どもたち自身がめあてを立て、計画・実行し、振り返る という「子ども自身のPDCAサイクル」を重視し、「よりよい学校生活を子どもたちがつくる」学校を目指していきます。

これまで同様、地域の皆様・保護者の皆様のご協力・ご支援をよろしくお願いいたします。